



KITAJUKKEN GAWA

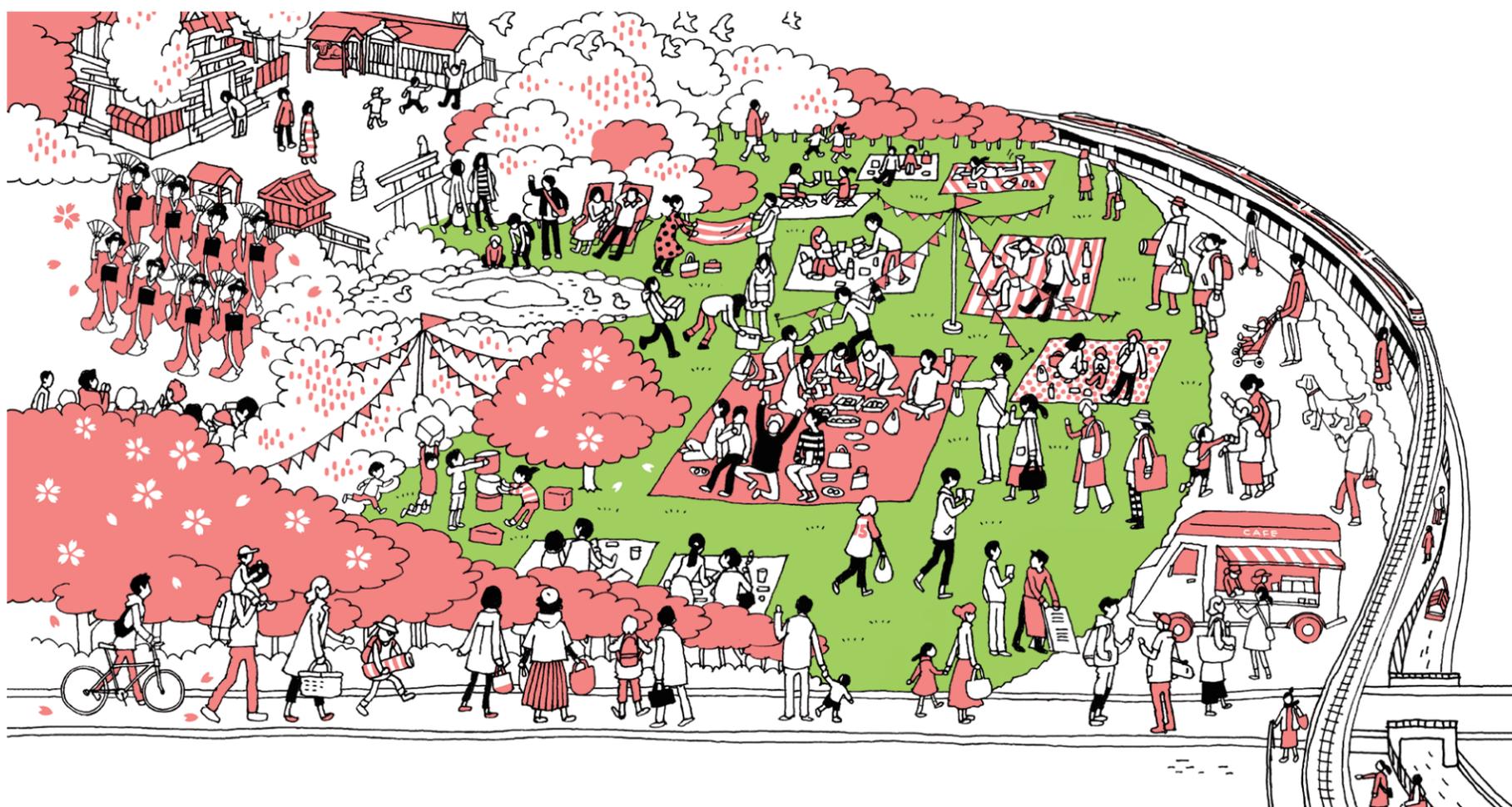
北十間川プレス

PRESS

Vol.III
2020.3.19

もうすぐ川^{かわ}るよ!

いよいよオープン！にあわせて地域はどう変わる？！



いよいよその時がやってきました。それぞれの施設が開業を迎えた2020年春、隅田公園が「居場所」になり、水辺が「癒し」を感じる場所になります。浅草と新たな徒歩ルートで「繋がり」、人々が「集う」お店が誕生することが期待される北十間川エリア。

重要なのは、この場所がこのエリア（本所吾妻橋、向島エリア）に住む人々にとってどんな豊かさをもたらすか、ということはないでしょうか？

今回の特集では、北十間川エリアのオープン情報を一気に見せ！あの場所はどのようなもの？あの店はどんな店？にお答えします。

このエリアの豊かな生活を垣間見えるそんな新しい場所に多くの人が惹きつけられ、さらに多くの人々がやってくる。そんな未来を北十間川水辺活用協議会ではこれまで多くの時間を割いて議論がされてきました。そのひとつの区切りを迎えたいま、エリアは新しい豊かさを手に入れることができるのか、少し先取っててみましょう。



オープンに向けて各施設の工事も追い込みに入っています。これまで歩くことも近づくこともできなかった北十間川には「河川テラス」が整備され（⇒詳細 P.2）、リニューアルされる「隅田公園」は昨年度に整備された芝生がすくすくと育ち気持ちのいい緑が広がると同時に、新たにつくられた舗装スペースやトイレもその姿を現してきました。（⇒詳細 P.3）

東武鉄道の高架下には話題の「東京ミズマチ[®]」が誕生。個性的な業施設が開業しコミュニティスポットとして期待されています。（⇒詳細 P.4,5）

そして、隅田川に新設され浅草～東京スカイツリー[®]を結ぶ歩道橋「すみだリバーウォーク」は4/13の開通を目指してまさに追い込み中です。（⇒詳細 P.6）

ニュースポット特集

北十間川エリアに5つのニュースポットが相次いでオープン! 浅草と東京スカイツリータウン®という日本有数の観光地に挟まれたこのエリアにできる5つのスポットという見方もできますが、この地域の人々がこの5つのスポットをどう使いこなすか、という見方もできます。

このエリアの未来を占うビッグプロジェクトは、どんな姿になって、どんな使われ方がなされるのだろうか? それぞれプロジェクトに携わった中のひとに、作り手の思いを伺いました。



ニュースポット特集 1

北十間川の河川テラスでたたずむ!



解説

これまでこのエリアの北十間川沿いは、歩くことも近づくこともできませんでした。しかし、東京都による護岸の耐震補強工事が行われ、その上部に生まれた空間を利用して、新たに河川テラスを整備しました。範囲は、北十間川の枕橋～源森橋間(約180m)及び源森橋～小梅橋間(約220m)の両岸で、北側は4～5m程度、南側は3～4m程度の幅があるテラスです。

テラスへは、各橋詰からアプローチできるとともに、北側に並行して走る鉄道高架下にも数箇所の貫通路を設け、北側の道路からテラスにも直接アプローチできます。この貫通路により、鉄道高架によって川と街が分断されることなく、河川、鉄道高架、道路、さらには隅田公園といった一体的な空間づくりを実現しています。

北側テラスに隣接する鉄道高架下には飲食店等のテナントが入りますが、この鉄道用地と河川用地の間には仕切りを作らず、一見すると飲食店等のオープンテラスのように見える連続した作りになっています。

テラスには、一年を通して散策を楽しんでいただけるように、四季折々の植物(高木: サクラ・ヤナギ、低木: ヤマブキ・クチナシ・ハギ・ツツブキ)を植え、散策の途中にお休みできるベンチも設置してあります。さらには、統一感を持った照明灯を配置し、夜間も明るく安全に利用できるテラスになっています。

デザインについても、一体的な空間づくりに寄与できるように関係者間でデザインガイドラインを共有し、統一したデザインを目指しました。その結果、護岸の壁面は、もともとあった安山岩護岸を思い起こすようにスライスした安山岩を貼り付け、柵や照明灯は、黒を基調としたデザインとし、落ち着いたシックな雰囲気を作ることが出来ました。



担当者に聞く 田村 知洋さん

墨田区
都市整備部 都市整備課
都市整備・河川担当

Q: どんな使われ方を想像してつくりましたか?

観光やまち歩きで北十間川周辺に遊びに来られた方はもちろんのこと、今まで川の近くに住んでいながら、川のことをあまり意識してなかった地元の方々に、散歩や憩いの場として使ってほしいです。そして、まちの誇りの場として、大切に育てていってほしいと思います。

また、水辺ならではのイベントやオープンカフェなど、区内には無い新しい使われ方をする水辺になってほしいと思います。

Q: 今回の公園整備で区としてどんなチャレンジをしましたか?

河川区域を民間でも利用できる規制緩和策である「都市・地域再生等利用区域の指定(北十間川の枕橋から東武橋の河川区域)」は、一つの大きな契機になりました。

また、北十間川の今後のあり方を、これまでの管理者(行政)のみが考えるのではなく、行政・民間企業・住民等が連携して検討していく場(北十間川水辺活用協議会)を作ったことは、新たなチャレンジです。

point!!

- ・地域の合意形成による民間利用の「規制緩和」
- ・都の河川整備、区の河川整備、民間の投資の連動
- ・「めぐって楽しい街」への投資

隅田公園がリニューアル！まちの居場所ができる？！



解説

隅田公園をリニューアルした範囲は、主に4つのゾーンに分けることができます。1つ目は、西側から東側に向かって傾斜のついた広大な「①芝生広場」です。北側の日本庭園に向かって視界が開け、桜で外周を囲み、大きく空が開いたオープンスペースとなっています。2つ目は、芝生広場の南側に東西をつなぐプロムナード、南側中央にイベント等で利用できる30m×40m程度のオープンスペースとなっている「②舗装広場」です。広場内各所に、コンセントボックスやイベント仮設の固定補助金具を配置しています。3つ目は、周辺より小高い眺望の良い「③花見丘」です。北側にある『明治天皇御製碑』周辺の演出を強化しました。北側から丘中央部に向かって傾斜の緩い舗装したスロープを配し、頂上部には、円状のスペースとベンチを配置しました。最後に、男子、女子、だれでもトイレのほか、給排水、電源、アンプ、仮設固定補助金具、ベンチ等の機能をもった「④公園利活用機能付トイレ」です。



施設概要

- ①芝生広場 約3,000㎡
- ②舗装広場 約1,100㎡
- ③花見丘 約2,700㎡
- ④公園利活用機能付トイレ
(男(小5大3)女(5)だれでもトイレ)

担当者が選ぶ、こだわりポイント3選！



①屋外電源(鍵付、15A)が5箇所もある！(これでイベントがやりやすくなって地域が盛り上がって欲しい！)



②固定できます！広場に18箇所、トイレ付近に2箇所設置されたアンカー！ポールもたてられますよ、これを使ってなにが楽しめるか楽しみ！



③トイレに固定金具がたくさん！トイレがただのトイレではなく、イベントのバックヤードなどになることを見越して、さまざまな仕掛けがたくさん。



担当者に聞く 浮貝 忍さん

墨田区
都市整備部 都市整備課
都市整備・河川担当

Q: どんな使われ方を想像してつくりましたか？

使う人の『公園で(公園なのに)“こんなことできるかな?”、“こんなことできたら面白そう”』といった思いが実現できるような公園であれば良いな、と思っています。

Q: 今回の公園整備で区としてどんなチャレンジをしましたか？

(“遊ぶ” + “憩う”) × “使う” = ∞

遊具や噴水等のいわゆる“公園施設”がない“広場”を中心とした整備。

単なる広場ではなく使う人の“使い方”の想像を形にする“可能性の広がる整備”を意識しました。

電源、給排水等のインフラのほか多機能な設備を配し、使い方によって様々な姿に変化していく新しいタイプの公園です。運用や制度等にも踏み込み、これまでの公園とは、一風変わった設えになっています。

point!!

- ・多様なひとびとが「居場所」と感じてもらえる空間
- ・さまざまな「出会い」が起きる場所
- ・さまざまな「出来事」が起きる場所

話題のニュースポット「東京ミズマチ®」ってどんなところ？



東武鉄道の高架下がリニューアル！

2020年4月17日(金)によいよ開業する「東京ミズマチ」。近接する東京スカイツリータウン®の“タワーのある街”(空の街)を表現した東京ソラマチ®と合わせ、水辺の街であることをわかりやすく表すとともに、地域に根差した、誰もが親しみが持てることを期待して名付けられたこの商業施設は、東武鉄道の高架下に連続して設けられ、開業する店舗の数は14店舗。4月17日はまずウエストゾーン(三ツ目通りの隅田川側の高架下)が開業します。

開発にあたって、どんな思いが込められたのでしょうか？

浅草と東京スカイツリータウンを結ぶあらたな東西軸を整備し、浅草寺～北十間川エリア～東京スカイツリータウンを最短で結ぶことで、訪れる方々に楽しみながら回遊していただけるルートを生み出し、浅草・東京スカイツリータウン間を東京 No.1 の観光スポットとなることを目指している東武鉄道。

近隣にお住まいの方が旅するように過ごし、国内外の観光のお客さまが暮らすように滞在して欲しいという思いを表現した「Live to Trip (リブトゥトリップ)」をコンセプトとし、周辺散策しながら、新しい下町の魅力を感じられる食事や買い物、体験ができる店舗がラインナップされました。同時に整備される隅田公園や河川テラスとあわせて、あらたな地域の「居場所」となるか、期待が高まります。



ロゴは、鉄道高架橋と店舗、それが川面に映る様子をデザインしたもの。またマーク全体を縦にしてみると漢字の「水街」と読めるところに遊び心を取り入れたという。

point!!

- ・話題性のある個性豊かなショップが揃う！
- ・公園や河川といった自然環境を活かし、**テイクアウトを楽しめる店舗等が出店！**
- ・新たなコミュニティスポットも入居！
- ・墨田区の「北十間川・隅田公園観光回遊路整備事業」と連携
- ・浅草と東京スカイツリーを結び、楽しみながら回遊できるルートに期待が高まる



担当者に聞く 関野 孝行さん

東武鉄道株式会社
生活サービス創造本部 沿線価値創造統括部
商業開発部 課長

Q. どんな使われ方を想像して作りましたか？

地元にお住まいの方、街歩きをしている方、観光の方、それぞれが自然と集まり賑わいが生まれる。そんなシーンを想像して開発いたしました。

Q. 今回の整備で会社としてどんなチャレンジをしましたか？

自然と街と施設が境なくつながるよう、各棟を分棟配置とし貫通路を設け河川から公園間の回遊性を高めることや河川側、公園側それぞれに建物の窓面多く設けることで目線をつなぐ工夫をしております。また、各店舗前には植栽やウッドデッキエリアを設け、周辺とつながる様々な仕掛けをしております。

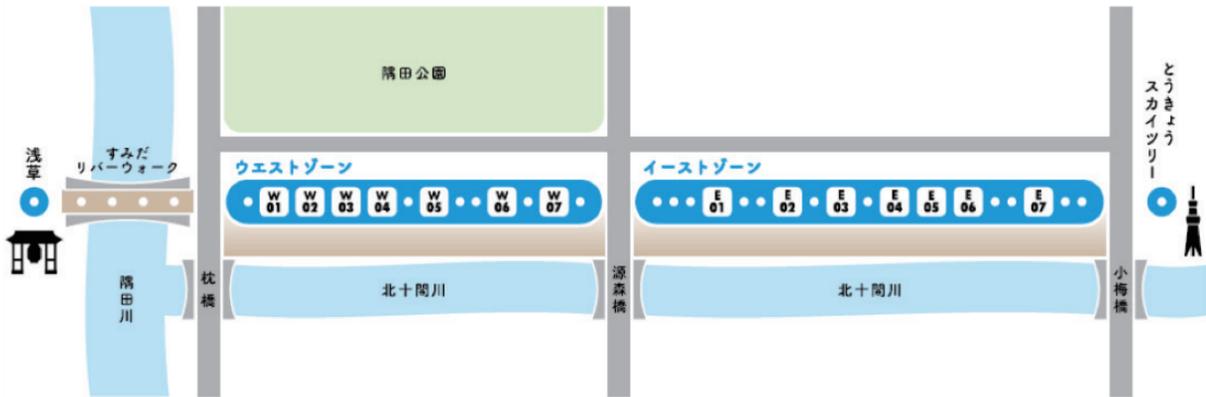
Q. 地域のみなさんへのメッセージ

公園や河川といった自然環境を感じられる飲食店やカフェ、雑貨店が開業いたします。是非、お一人でももちろんですが、ご友人やご家族などお気軽にご利用いただければと思っております。

東京ミズマチ® 期待の店舗はどんなラインアップ?

入居する店舗は、それぞれ話題性がある個性的な店舗ばかり。公園と川の周辺環境を活かし、テイクアウトを楽しめる店舗が出店するのも特徴。6月に開業するイーストゾーンでは、ボルダリングジムを中心にしたスポーツスタジオにカフェやサイクルショップを併設した店舗が開業し、このエリアのあらたなコミュニティスポットとしての活用が期待されます。

このエリア全体でどのように時間を過ごすのか、これからは、「北十間川エリアにいこうぜ」と、まち全体が目的地になる時がやってきます。



LAND_A (カジュアルダイニング)

産地に拘り、季節を感じさせるカジュアルダイニング。大人から子供まで小さな美味しいが沢山溢れる、“わくわく”する幸せな場所。大好きな“あの人”とまた行きたくなる、LAND_Aが誕生します。



KONCENT (デザインプロダクト)

創る人と造る人を、そしてモノを使う人をつないでゆく、モノづくりの発信基地、KONCENT(コンセント)。アッシュコンセプトが手がけるデザインプロダクトを中心にさまざまなアイテムが並びます。



Jack's Wife Freda (オールデイダイニング)

ニューヨークで人気の行列レストラン日本初上陸。ハリウッドセレブも常連のお店をFOOD ARCHITECT LABが運営。ランチからディナーまでオールデイでお楽しみください。ZAGATで高評価のアボカドトースト等見た目も可愛いメニュー揃い。



いちや (和菓子・甘味処)

地元 曳舟で人気の和菓子屋「いちや」が手掛ける甘味処。職人がひとつひとつ丁寧に手作りをした白玉パフェや、季節によってかき氷などの甘味を楽しめます。こだわりの大福やどら焼きもお持ち帰りできます。



DEUS EX MACHINA ASAKUSA (カフェ・アパレル)

オーストラリア発サーフ & バイクカルチャーをベースにしたライフスタイルショップが東京初出店。心地良いカフェ、セレクトされたアパレルと様々な顔を持っています。ヘッドバリスタのヨシさんは多くのファンを持つ人気バリスタです。



NIHONBASHI BREWERY. (クラフトビール)

※5月下旬オープン(予定)
アメリカポートランドのエコブルワリー「HUB」によるオリジナルレシビのビールが楽しめるクラフトビール専門店。食材も、出来るだけローカルで安心(無農薬、低農薬)なものを使用しています。



むうや (ベーカリーカフェ)

東京表参道で人気の“パンとエスプレッソ”が手掛ける新店舗。自慢の食パン「ムー」とエスプレッソがテイクアウトはもちろん、店内でも楽しめます。



WISE OWL HOSTELS RIVER TOKYO (ホステル)

浅草、東京スカイツリー®観光の拠点となるホステル。併設するカフェ & BAR やオープンスペースでは、地域にちなんだイベントやワークショップを実施予定。「遊びに来れるホステル」としてすみだのヒト・モノの魅力を発信します。



ファミリーマート (コンビニエンスストア)

ゆったりとくつろげるイートイン席を9席設け、人々が集まれるカフェのような空間をご提案。コンビニ機能と利便性を提供し、快適に過ごせるお手伝いをします。



すみだ産業交流拠点 (仮) (地域発信・コミュニティ)

ものづくり、コトづくりを通じて地域内外の商品や人々と交流し、墨田区の魅力を国内外に発信していく拠点。1階では墨田区の商品等を販売。2階ではワークショップ・地域コミュニティ等の交流の場を提供します。



WASH&FOLD (洗濯代行・クリーニング・コインランドリー)

日々のお洗濯は、「WASH&FOLD」にお任せください。毎日の洗濯物をスタッフが一人一人にわけて、水洗い(WASH)、乾燥、手たたみ(FOLD)してお渡します。店内にはコインランドリーマシーンやクリーニングの受付もございます。



shake tree burger&bar TOKYO (グルメバーガー)

両国と錦糸町のちょうど真ん中という立地にありながら連日お客様で賑わう人気のハンバーガー店。“Let's have fun! お客様と一緒に全てを楽しむ”がモットー。パンズの代わりにパティを使用したバーガーはインパクト抜群です。



LATTEST SPORTS (スポーツ複合施設・イベント)

JazzySport プロデュースのボルダリングジム“the stone session tokyo”、サイクルショップ、自家焙煎の本格派コーヒースタンド、遊び砂場など、大人から子供まで楽しめるスポーツ複合施設が登場。音楽やアートの大規模カルチャーイベントも開催。



ニュースポット特集 4

東京スカイツリー®・浅草連絡歩道橋

すみだリバーウォークでつなぐ



解説

隅田川に新設する歩道橋「すみだリバーウォーク」が4/13に開通することになりました。北十間川・隅田公園観光回遊路整備事業にあわせ、浅草と東京スカイツリーを結ぶ新たな東西軸として整備してきました。浅草寺～北十間川エリア～東京スカイツリータウン®を最短で結節する動線を整備することで、浅草・東京スカイツリーエリアの連携を一層強化していきます。

名称の由来は浅草と東京スカイツリーを結ぶ隅田川を中心としたにぎわいのある水辺エリアを回遊していただきたいとの願いが伝わる名称としています。すみだリバーウォーク新設にあわせ、既存の隅田川橋梁のカラーデザインを東京スカイツリーに採用している「スカイツリーホワイト」を基調とした色に変更します。これにより、昼景はもちろん、夜間のライトアップ時でもより広域なエリアでの一体感を醸成することを目指します。

point!!

- ・めぐる、つなぐ
- ・官民連携
- ・地元企業として地域に貢献できること

ニュースポット特集 5

地域とつながる船着場



解説

北十間川の北十間川樋門(吾妻橋3-4)より西側の範囲は、潮の満ち引きによって2m前後水面が上下する感潮河川です。一方で、北十間川樋門より東側の範囲は、水門により閉鎖され水面を意図的に下げている水位低下河川です。このように、墨田区内の河川は、大きく2種類に分けられますが、今回小梅橋下流に設置する船着場は、感潮河川に位置し、潮の満ち引きに対応した浮棧橋という形式の船着場になります。浮棧橋までは、河川テラスからバリアフリー対応のスロープが設置され、車いすやベビーカーでも利用できる船着場です。

船着場の大きさは、12m×3.5mで、小型船専用の船着場で、令和2年秋ごろの完成を目指し、今後工事に着手します。

先に述べたように、船着場の東側には北十間川樋門という水位差の大きな水門があるため、船の行き来は、隅田川から船が入り、船着場を利用した船はUターンして隅田川に出ていくことになります。

この船着場では、平常時は舟運等の利用が検討されているほか、災害時は防災船着場としての利用も考えられています。東京スカイツリーにも近く、また、隅田川を介して、浅草、両国、日本橋なども直接つながる舟運の可能性を持った船着場です。具体的な舟運の計画については現在検討中ですが、北十間川エリアの水辺の賑わいや、地域とのつながりにおいて、重要な役割を担う船着場になると考えています。



担当者に聞く 高橋 直樹さん

東武鉄道株式会社
生活サービス創造本部
まちづくり推進統括部
浅草・すみだミズベリング開発担当 課長

Q. どんな使われ方を想像してつくりましたか？

「すみだリバーウォーク」は営業中の鉄道橋に一般の人が自由に歩ける遊歩道を併設した世界でも非常に珍しい歩道橋です。近隣住民の方々、オフィスワーカー、外国人街歩き観光客、日本人観光客が「すみだリバーウォーク」を利用することで、隅田川、鉄道の魅力を再発見し浅草エリア、東京スカイツリーエリアの2大観光地を歩いて楽しんでいただければと考えております。

Q. 今回のリバーウォーク整備で会社としてどんなチャレンジをしましたか？

浅草エリアと東京スカイツリーエリアはとても近接しているにもかかわらず、隅田川に隔てられ各々が独立した観光地となっています。この二つの観光地の回遊性をどのようにしたら高められるのか、試行錯誤した結果がすみだリバーウォークの整備に繋がりました。

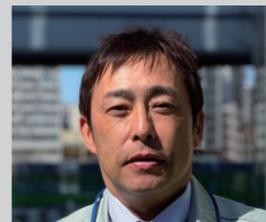
Q. 地域の皆様へのメッセージ

「すみだリバーウォーク」の開通により都内有数の二つの観光地が一つになり、東京最強の観光地が誕生します。今後は隅田公園、河川テラス、高架下商業施設との連携を図りながら地域の皆様が実施する様々なイベントと協調し、エリア全体の回遊性を高められるよう地元の皆様と東京一番の観光地を目指してまいります。

SUMIDA RIVER WALK

すみだリバーウォーク 概要

- ・供用開始： 2020年4月13日(月) 13:00(予定)
- ・開門時間： 7:00~22:00 年中無休
※季節やイベントの開催等により変更になる場合あり
※隅田川橋梁ライトアップ時間 日没~終電まで
※天候その他の要因により閉鎖する場合あり
- ・構造： 既存の鉄道橋下流側(南側)に添架(延長約160m 通路幅2.5m)
- ・通行料： 無料
- ・通行制限： バイク不可、自転車は手押しの場合のみ可(歩行者扱い)
※但し、イベント等の多客時は規制する場合あり



担当者に聞く 根岸 達也さん

墨田区
都市整備部 都市整備課
都市整備・河川担当 主査

Q. どんな使われ方を想像してつくりましたか？

北十間川のこの区間に、観光船や手漕ぎ船(ボート、SUPなど)が通航し、河川テラスと船利用者が手を振り合うような姿を想像します。隅田川を中心とした都内の舟運ネットワークの一角をなす船着場として、各所から北十間川に訪れていただき、墨田区の新たな入口になるような役割を船着場には期待します。

Q. 今回の公園整備で課としてどんなチャレンジをしましたか？

現在検討中ですが、民間事業者と協力して、より魅力的な利活用ができるような利活用・管理運営手法を検討しています。

point!!

- ・地域とのつながり
(地元、北十間川周辺エリア、他の地域)
- ・舟運事業者との官民連携

北十間川 水辺活用協議会

今年度、協議会は2回、管理運営部会3回、賑わい創出部会3回を行ってきました。河川利活用ルールの制定や運用方針、地域が求める本当の賑わい創出、オープンに向けての施策など議論してきました。北十間川だけでなく、公園・道路・高架下・周辺地域といったこのエリアを俯瞰的に捉え、各所がオープンした後、どう活動していくのか今後の課題です。

第7回水辺活用協議会(12/18)

12月18日に第7回水辺活用協議会を開催しました。当日は各施設の整備状況、管理運営部会及び賑わい創出部会の検討状況についての報告、議事として隅田公園新設広場の愛称募集やオープニングイベントの実施について諮りました。

各施設の整備状況として、隅田公園は舗装広場、花見丘、芝生広場の整備、コミュニティ道路は墨堤通りから三ツ目通り、及び三ツ目通りから小梅橋まで整備を実施しています。また東武鉄道の高架下店舗は「東京ミズマチ®」として名称を発表し、歩道橋は「すみだリバーウォーク」に確定しました。

管理運営部会については、日本橋船着場の視察、協議会の役割や河川テラスのルールの検討状況について報告があり、賑わい創出部会についても各種試験的なイベントの実施内容について報告がありました。

議事事項である隅田公園新設広場の愛称については、墨田区民に広く周知し、愛着を持ってもらうことを目的に愛称を募集すること、応募者への記念品贈呈や表彰を予定していることについて会長から説明がありました。また3月にオープニングイベントを実施したい旨の説明があり、いずれも会員から大きな異論なく、賛成多数により承認されました。

今年度最後となる第8回目の協議会は、3月中旬の実施を予定しています。各部会、イベントの実施内容等については本誌にて別途掲載していますので、併せてご覧ください。



管理運営部会(12/18・2/20)

12月18日に臨時の管理運営部会、2月20日に第3回目の管理運営部会を実施しました。臨時部会では、協議会の役割、河川テラスの管理ルール・イベント運用ルールについて、前回の検討内容を踏まえて確認しました。部会員からは、ルールに沿わない利用をした際の警告・中止権限や罰則の有無について意見があり、イベント運用に関しては区が指導することを確認しました。また河川テラスへの電源や水道等の引き込み、使用については今後の検討事項となりました。

第3回目の部会では、これまでの議論をまとめ、来年度の協議会の役割と河川テラスの管理ルール・イベント運用ルールを確定しました。協議会の役割としては、準則特例占用が新たに発生する際の審議、活動計画の確認や北十間川周辺情報連絡会(仮)への参加を予定しています。また、賑わい創出活動として、地元のイベントやコミュニティ活動等、積極的に行っていくことを確認しました。

各種ルールは安心・安全の確保を前提に、まずは一般的な内容で運用し、事例を積み重ねる予定です。部会員からは防犯カメラの設置有無について意見があり、引き続き検討することになりました。また、河川テラスの視察希望があり、後日の実施を調整しています。

来年度1年間は役割・各種ルールともに試験運用と位置づけ、より良い活用に向けて適宜見直し、改善していきます。



賑わい創出部会(11/15・2/28)

11月15日に第2回賑わい創出部会、2月28日に第3回賑わい創出部会を実施しました。前回議論しましたこのエリアに來ている既存ユーザーと適切なターゲット、求める本当の賑わいについて振り返るとともに、具体的な賑わいを創出していくための戦略についての検討を行いました。

エリアの俯瞰的な把握を行うためのツールとしての戦略マップづくり、試験的に行ってきましたイベントの効果と課題、情報発信活動など様々なことにチャレンジしてきました。

具体的な賑わい創出のアイデアも多く挙がり、今後のアクションプランが決まりました。



インタビュー：水辺からまちの賑わいを検討、ここでしかできない賑わいの最適化 松村由美 賑わい創出部会 部会長(本所吾妻橋商店会長)



Q. 賑わい創出部会の目的・内容について教えてください。

賑わい創出部会は、北十間川周辺エリア及び水辺の賑わいを検討する部会として発足しました。昨年度は計4回の部会にて様々な事例研究やワークショップを通して水辺や周辺エリアでの賑わいをつくっていくためのターゲット、施策を検討してきました。そして、今年度はより具体的なアクション、求める本当の賑わいについて検討しています。オープンも間近と迫り、毎回活発な意見がでてきます。

Q. 今年度の目標・今後の展望について教えてください。

本所吾妻橋商店街で革屋をやっている関係で、国内外の都市に出張に行くことが度々あるのですが、今年度行ってきた中でもイタリアや韓国、福岡などの都市は水辺がと密接につながっていて、都市の活性化には水辺が欠かせないものだと感じています。ここ北十間川周辺エリアも水辺からまちを盛り上げていきたいです。

区立隅田公園 新広場 愛称最終案「そよ風ひろば」に決定！

墨田区ホームページや墨田区報等で広く募集していました、区立隅田公園新設広場の愛称最終案が「そよ風ひろば」に決定しました。この愛称は、隅田川や北十間川、そしてひょうたん池など、風の通る水辺に面したエリアであり、芝生が広がり風通しがよくなったという公園の改良点も踏まえたものです。これから「そよ風ひろば」が、住む人、働く人、訪れる人、みんなにとって、自分の居場所だと感じられるような使い方をしていきましょう。

令和元年12月から約2ヶ月間の応募期間で、区内外から約400件もの応募をいただきました。ご応募いただいたみなさんありがとうございました。応募いただいた案を、北十間川水辺活用協議会、墨田区、地元町会・商店会、東武鉄道、アサヒグループ等によって構成される隅田公園新設広場愛称選定委員会によって選考し、最終案が決定されました。この後、北十間川水辺活用協議会から山本墨田区長に、愛称についての要望が提出されることとなります。最終案となった「そよ風ひろば」以外にも「さくら広場」、「つながり広場」などの案が最終案次点として、それぞれ地元5町会、本所吾妻橋商店会から次点賞を受賞しました。また、全応募者の中から抽選で、参加賞として、北斎館チケット、東武動物公園チケット、お茶(ケース)などが贈られます。各賞当選者の発表は、北十間川水辺活用協議会事務局からの連絡をもって、発表とかえさせていただきます。



広場名のお披露目を検討中！

来年度運営方針

北十間川水辺活用協議会が発足(平成30(2018)年3月27日)して約2年、平成30(2019)年度には北十間川枕橋～東武橋間において河川敷地占用許可準則に基づく「都市・地域再生等利用区域」の指定(平成31(2019)年3月25日)や、「北十間川周辺公共空間の活用方針」のとりまとめを行いました。活用方針は「水と緑のサードプレイス」をテーマとし、地域の日常風景創出を第一とし、まずは地域から愛される「居場所」とすることをイメージし、以下の活用方針をとりまとめました。



北十間川公共空間の6つの活用方針

チャンス	誰もがそれぞれの過ごし方で心地よくなる「機会」「場」づくり	伝統歴史	すみだの来歴や積み重ねを活かしてさらなる魅力をつくりあげる活動づくり	日常風景	人が集まり、出会い、心地良く過ごす風景自体が観光資源になる、穏やかで活気ある日常風景づくり
連携	ここにしかない、公園、道路、高架下施設、水辺を一体的に利用できる仕組づくり	共創	それぞれの立場を超え、産官学民が地域の力と連携し、協働できる体制づくり	波及	公共空間を核とした地域に広がる「まちづくり」のきっかけづくり

そして、令和元年(2019)年度は、活用方針に基づく活動フェーズに移行し、河川利用を想定した河川利活用ルール の制定と運用方針、工事中の隅田公園での「ロングテーブル BBQ&水辺で乾杯 2019」(7月7日)、「すみだ川ものコト市」出展による情報発信(10月26日)、北十間川周辺の潜在的資源・価値を再発見する「北十間川の未来を面白がる会」開催(11月10日)といった活動を試験的に進めてきました。これらの活動から、以下の知見を得ました。

- ・活動を通して、公共空間活用についてのポジティブな意識は生まれてきたが、積極的に活用してくれる人が必要
- ・賑わいづくりは北十間川だけでなく公園、道路、高架下一体で考えるべき
- ・一体で考える際に、全体を俯瞰して把握し、相互調整を行なう存在が必要
- ・北十間川にとどまらず、エリアの継続的な情報発信が必要
- ・賑わいづくりも大事であるが、人が集まったからこそその地域の課題が出てくるのが予想されるため、それを解決するプラットフォームが必要

以上を踏まえ、来年度、北十間川水辺活用協議会は河川利用における諮問機関として機能し、河川敷地占用許可準則に基づく、活用にあたっての「地域合意」という役割を果たしながら、安全・安心の河川空間となるよう制定した利活用ルールのチェック、河川利活用の社会実験の誘致、情報発信などを行なっていきます。また、協議会の活動を受け、北十間川周辺の全体を俯瞰する会議体として「北十間川周辺情報連絡会(仮)」を発足するなどエリア全体の活性化に寄与する動きも出てきています。2020年4月、北十間川まちびらきを皮切りに、実際に公共空間ができ、それを活用するフェーズに入っていきます。協議会としてこのフェーズとどう向き合っていくかを来年度は議論していきます！

発行元：北十間川水辺活用協議会事務局：

これらの活動に興味がある方、質問、ご意見をお持ちの方は、
墨田区役所 企画経営室 公共施設マネジメント担当 (03-5608-1455) までお問い合わせください



北十間川・隅田公園観光回遊路整備事業の事業紹介サイト
 URL http://www.city.sumida.lg.jp/sangyo_matidukuri/matizukuri/kasen_kyouryou/KitajukkengawaSumida.html



FACEBOOK ページオープン!
 日々情報を発信中です!
「すみだ北十間川周辺エリマネ準備チーム」

